

平成22年度一般会計予算は 171億6,000万円を計上

まちづくりに力強く踏み出す予算

**当初予算前年度比
10億9,300万円減(△5.6%)**

「平成22年度は私が市民の皆様と約束したマニフェストを実行するために、職員一丸となって…」という門脇市長の所信表明で、2月17日に今任期最後の定例会の幕は開いた。

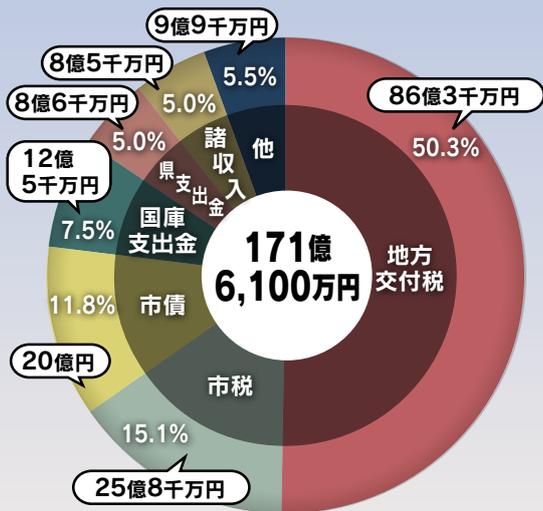
議員各位は春の選挙戦と冬季オリンピックが気になり、落ち着きがないのが目立った。

首長が変わるところも違ってくるのかと、自分の目を疑いたくなるような光景も見られた。何がそんなに変わったかであるが、かつてないほど議会対応が懇切丁寧であることが印象的である。

さらに短期間の中で、公約に掲げた新規の施策76事業、7億6,000万円を事業化したことである。「スピードをもって」という行政運営の公約も果たしたことになる。

心配な点は「職員一丸となって…」ということについてである。失礼だが、職員が市長についているかが心配である。

歳入グラフ



地方交付税、5億3,000万円の伸び

■深刻な景気・雇用情勢が続いている中、国の地方に配慮した財政対策により、地方交付税と臨時財政対策債が大幅に増額された。

仙北市はここ数年、当初予算編成にあたり、財政調整基金を取り崩してきたが、平成22年度は基金に頼ることなく、予算編成ができた。

「まちづくり」に力強く踏み出す予算に重点配分ができたことは、門脇丸の順調な船出と云ってよいと思う。

一般会計当初予算

171億6,100万円(前年度比△10億9,300万円、△6.7%)である。神代小学校建設や木質バイオマス施設建設など大型公共事業の減少による予算減である。

特別会計当初予算

11億4,700万円(前年度比△3億8,713万3千円、△33.3%)である。主な減額は下水道事業会計、集落排水事業会計の借換債や田沢地区集落排水事



財源確保に今年も悩むのか、仙北市税務課

企業会計当初予算

64億1,232万3千円(前年度費△8,789万9千円、△3.3%)である。水道事業会計の老朽管更新、監視システム整備事業の完了に伴うもの。

一般会計歳入の3本柱は地方交付税86億3,000万円(前年比6.5%増)。

うち普通交付税は国の地方財政対策により、5億3,000万円増額の81億3,000万円。なお特別交付税は前年度同額の5億円である。

市税は景気の低迷により落ち込みが激しい。また観光客の減少による入湯税の減少も続いている。

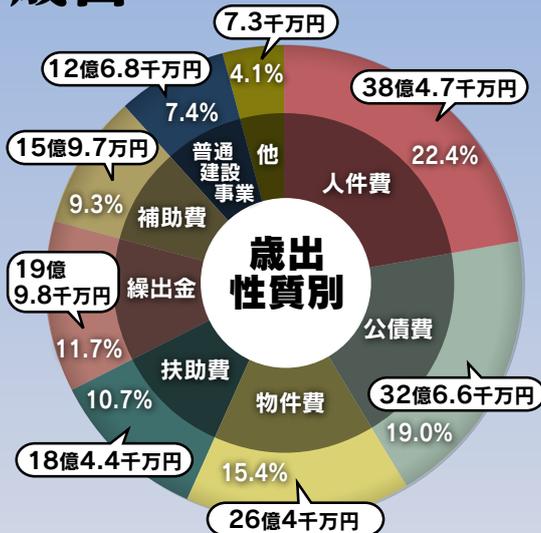
前年度比3%減の25億8,187万6,000円である。

市債は20億1,540万円。うち第二の交付税といわれる臨時財政対策債は11億5,000万円が、国の地方財政対策として措置された。

その他には国庫支出金が12億5,318万円(前年比(△7.1%)、県支出金8億6,173万円前年比(△29.0%)が措置された。

平成22年度当初予算の特長は、収支不足による財政調整基金からの繰り入れを必要としなかったことである。基金が補正予算の財源として留保できている財政実態は心強いといえる。

歳出グラフ(性質別歳出内訳)



人件費は38億4,754万円でトップ

■性質別歳出の構成比率でトップを占めるのは、何といても人件費である。退職者が多くなり、職員数が減少しているものの歳出全体の22・2%を占めて断然トップである。

前年度と対比すると1億4,487万円、3・6%減となっている。

次に支出の多いのは、借金返済の公債費で全体の19%で32億6,674万円である。これも繰り上げ償還などにより前年度より、3,797万円(△1・1%)の減少で

ある。今年度当初予算の元利償還見込み額は、28億1,655万円、年度末残高は25.4億5,108万円と見込んでいる。市民一人当たりの借金は平成22年度では82万円となる。なお平成21年度は84万6千円で2万6千円下がったこととなる。市長の公約は「一人当たりの借金を70万円台にする」だったが、目標達成はそんなに難しくないと考える。

3番目に多い支出は物件費の26億4,053万円(15・4%)である。これは前年対比5%増となっているが、木質バイ

オマス施設管理費3,400万円の増である。扶助費は「子ども手当給付費3億9,611万円などにより約3億円が増となっている。

普通建設事業費は構成比が7・4%。前年度対比が14億7,600万円減(△53・8%)となった。神代小学校建設事業費の減少と木質バイオマスの施設建設事業の終了に伴う減である。

マニフェスト政策予算に7億6,500万円

■目的別歳出の予算内訳の構成比をみると26,2%の民生費が44億9,936万円となっている。高齢化するにした



2億700万円でやっと整備される西明寺中グラウンド

がって、社会保障費が高くなっていくことがよくわかる。前年度比7・7%の伸びである。

次に多い公債費は説明したとおりである。

次は総務費の11・5%である。前年度に比較すると1億3,415万円(△6・4%)である。次いで病院等に繰出される衛生費が11・4%となっている。19億5,200万円が措置された。教育費は9・8%、土木費は7・1%。注目された農林水産費は構成比が4・7%8億1,988万円である。前年度比△45,8%、6億7,741万円の減は木質バイオ

マニフェスト政策予算に7億6,500万円

マス事業の終了による。商工費は3・9%の構成比率で、予算額は6億6,775万円の措置である。前年度対比も1・4%減となっている。

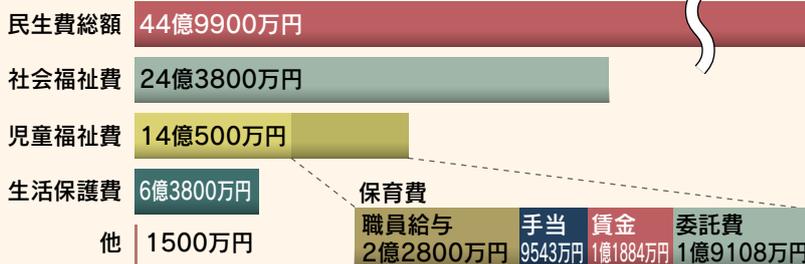
緊急雇用等対策事業費に1億1,500万措置

■労働費は前年度より約1億5千万円増額の2億3,499万円が予算措置された。今年度は臨時的、一時的就労機会の提供や安定的な雇用機会の創出を図る予算に充てられる。

事業内容は「緊急的な短期雇用」に7,830万円の予算で、32事業に96名が予定されている。「継続的な雇用機会の創出を図る委託雇用」3,742万円の予算で、雇用者11名(新規雇用1名)。

「緊急雇用助成金」650万円は4月から12月まで、助成額は一般15万円、新卒30万円、人材育成セミナー受講者20万円。対象労働者は60歳未満の仙北市在住者。他に「緊急雇用維持支援事業費補助金」は750万円で、雇用している労働者

民生費



を一時的に休業させた場合、休業等に係る手当の一部補助。

「勤労者・雇用対策事業費補助金」は、40万円の措置であるが、従業員の技術取得及び資格取得研修の一部助成である。